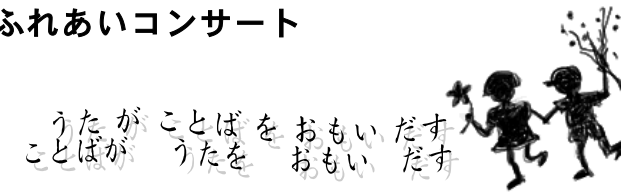


ミレニアムホールふれあいコンサート



日本の歌

ひびきの魅力・ことばの力

台東区教育委員会と東京芸術大学が協力してお届けするコンサートも、おかげさまでこれで3回目を迎えることができました。これまでも肩肘張らず音楽を楽しんでいただくことをいちばんの目的とし、少しばかり趣向を凝らしながら開催してまいりましたが、今年は、大学院応用音楽学研究室に加えて、音楽教育研究室、音楽文芸研究室からも協力をえて、東京芸術大学としていっそう充実したプログラムを作ることができたことを喜んでおります。このような企画と活動に理解をしめし、暖かくサポートしてくださった台東区生涯学習センターのスタッフのみなさま、素晴らしいステージを作ろうと練習に励んでくれた出演者のみなさま、裏方として働いてくれた学生諸君、そして助言と協力を惜しまず、素敵な文章もお寄せいただいた東京芸術大学の同僚諸氏に感謝いたします。

(畑 瞬一郎 東京芸術大学応用音楽学 教授)

2006年2月18日(土)

14:00開演

台東区生涯学習センター2階

ミレニアムホール

主催：台東区教育委員会

企画・制作：東京芸術大学大学院 応用音楽学研究室

協力：東京芸術大学大学院 音楽教育研究室・音楽文芸研究室

東京芸術大学大学院 応用音楽学研究室
プロジェクトリーダー 山之内貴子

ホームページ：<http://www.geidai.ac.jp/labs/gcam>

コンサートによせて

佐野 靖 （東京芸術大学音楽教育 助教授）

「日本の歌」の魅力はいろいろありますが、最近強く感じることは、ことばや調べが具体的かつ主観的にとらえられるために、さらには自分の人生と深く結びついているために、同じ歌であっても、場所や仲間、状況が変われば新たな魅力を味わうことができるし、自分自身の心情や立場によっては新たな自分を映し出すことができるということです。もちろん、歌によって昔の自分、かつての情景を思い出すことができるということのも大きな魅力にちがいありません。本日のコンサートでは、お馴染みの歌の数々が、皆様に新たな思いや発見をもたらし、皆様を自分探しの旅に誘ってくれることでしょう。

本日のプログラムは、歌曲、童謡、唱歌、歌謡曲など多様なジャンルから選曲されていますが、大正期の童謡運動から生まれた童謡も多く含まれています。この運動は、当時の日本を代表する文学者、音楽家たちが、子どものための作品づくりに意欲的に取り組んだ点できわめて意義深いものです。そうした作品を「今を生きる」若い音楽家たちが歌い演奏することは、とても意味あることではないでしょうか。

白秋・童謡・浅草・・・

杉本和寛 （東京芸術大学音楽文芸 助教授）

「赤い鳥」運動を詩の面から支え、自身も「からたちの花」「この道」「ゆりかごの唄」など、数多くの童謡を世に送り出した北原白秋（明治 18～昭和 17）は、新体詩・自由詩・抒情小曲から、短歌・俳句・小唄・民謡に至るまで、近代詩歌のほぼ全ジャンルにおいて超人的な創作活動をおこなったが、その詩人としての本質を彼の「童心」にみる意見も多く（高村光太郎は白秋を「童心と叡智の詩人」と評している）、それにともなあって、童謡への評価も高いものとなっている。詩人三好達治のように、「僕は白秋では童謡が一番すぐれていると思う。一番永遠性のあるものだと思う」という見方もあるほどで、だからこそ 90 年以上経った今もなお、白秋の童謡は我々の「童心」を揺さぶり起こすのだろう。

その白秋と、この台東の地は因縁浅からぬものがある。単に浅草聖天横町や谷中天王寺傍に住んでいたというだけでなく、その詩想に〈わかい東京〉（「金と青との」より）の中の、もっとも繁華な盛り場の雰囲気は、大きな影響を与えたに違いない。明治 40 年代前半、詩人木下杢太郎と光太郎、画家石井柏亭らと若手芸術家集団《パンの会》を結成し、隅田川をパリのセーヌ川に見立て、その周辺にある下町の西洋料理屋などでたびたび会合を催しているが、光太郎が〈浅草は／雷門のよか樓の畫のけうとさ〉と詩ったカフェー《よか樓》もそうした会場の一つであった。この街の銀座などとは一味違った華やかさは、白秋の詩心に陰翳を与えつつそれを詩の言葉へと昇華させた。〈われは思ふ、浅草の青き夜景を・・・わが友よ、わがわかし羅曼底の友よ、／日は暮れて蕃藪い
ろの光薄き孤燈のしめり／水の面と空氣とにしみじみとにほひいでたる。／そを見つつ暮れてゆくよるべなきわれのねたみよ。〉という「浅草哀歌」の一節は、そういう若き日の白秋の思いをしみじみと感ぜさせるのである。

演奏者紹介



北村 文乃 Kitamura Ayano, Soprano

東京都出身。東京芸術大学音楽学部声楽科卒業。現在、大学院修士課程に在籍。日本声楽家協会研究員。ヘンデル作曲《ジュリアス・シーザー》のクレオパトラ、フンパーディンク作曲《ヘンゼルとグレーテル》のグレーテルで出演。日唄文化協会フレッシュコンサート 2005 奨励賞。



今野 貴子 Konno Takako, Mezzo-soprano

埼玉県出身。東京芸術大学音楽学部楽理科卒業、大学院応用音楽学修了。同大学助手を経て、現在、立教女学院短期大学幼児教育科講師。ピアノ、歌、音楽療法を教える一方でクラシックからポップスまで幅広いジャンルのコンサート活動を精力的に行っている。



春日 保人 Kasuga Yasuto, Bariton

熊本県出身。東京芸術大学音楽学部声楽科卒業、大学院古楽科修了。フィリドール《太ったカトスの結婚》の世界初演にタイトルロール役で出演。2004 年レッジョ・エミリアのポリフォニー音楽祭に招聘されリサイタルを開催、好評を博す。日本ヘンデル協会会員。



粥川 愛 Kayukawa Ai, Piano

岐阜県出身。東京芸術大学音楽学部器楽科在籍、4 月より大学院修士課程進学予定。2003 年第 19 回日本ピアノ教育連盟オーディション全国大会大学生の部入賞。同入賞者記念演奏会出演。2005 年芸大奏楽堂モーニングコンサートにて、芸大フィルハーモニアと共演。

ゲスト・アーティスト



小畑 和彦 Obata Kazuhiko, Guitar

福岡県出身。81 年上京後、都内ライブハウスを中心に活動。主に JAZZ、ブラジル音楽を得意とし、パット・メセニー、トニーニョ・オルタ、ジョイス、小野リサ等、トップミュージシャンとの共演も多数。4 枚のリーダーアルバムの他に教則ビデオをリリースしている。